

【声明】

米国・イスラエルのイラン核施設攻撃に抗議し、ただちに中止することを要求する

2025 年 6 月 23 日

反核医師の会代表世話人会

米国のトランプ大統領は、21 日夜（米国時間）ホワイトハウスで演説し、「米軍はイランの 3 つの主要な核施設に対し、大規模かつ精密な空爆を行った。目的はイランのウラン濃縮能力を破壊し、世界一のテロ支援国家による核の脅威を止めることだ。空爆は軍事的に大成功を収めた。イランの主要な濃縮施設はまったく完全に消し去られた。」（産経新聞）と述べた。

それに先立つ 13 日、イスラエルは「戦闘機がイラン各地の核関連施設などを攻撃した」と発表し、その後も繰り返し、核関連施設の攻撃を繰り返している。

反核医師の会は、米国・イスラエルによるイラン核施設攻撃に強く抗議し、ただちに中止することを要求する。

米国・イスラエルによるイラン攻撃は国際法違反の何ものでもない。国際法における武力行使は、国連憲章第 2 条 4 項で「国際関係において武力による威嚇または武力の行使は、原則として禁止」されており、例外として自衛権の行使や国連安全保障理事会の決議に基づく武力行使が認められているのみである。今回の場合、このいずれにも該当しない。米国とイスラエルはイランの国家体制の転覆を企て、イスラエルと共謀してイランの最高指導者ハメネイ師の殺害を計画しているとの報道がある。他国が独立主権国家を武力によって崩壊させようとする企みは、いかなる理由があろうとも許されるものではない。

今回の米国・イスラエルのイラン核施設への攻撃は、「核兵器開発能力を破壊すること」とされている。イランは NPT 加盟国であり、核兵器の保有は許されない。しかし、世界最強の核保有国である米国が、NPT 第 6 条に違反して、核兵器の近代化をすすめている立場からは、イランの核開発を批判するという資格がない。さらに、NPT にも加盟せず、核兵器の保有国と考えられているイスラエルにおいても同様である。

核施設への攻撃は深刻な放射能汚染を引き起こし、ヒロシマ・ナガサキ、チョルノービリやフクシマで経験したように、長年にわたり地域住民のいのちと健康に重大な被害をもたらす。

アメリカのイラン核施設への攻撃は、新たな戦争の引き金となり、三度、核兵器が使用される事態ともなりかねない。今日における核戦争は、これまでの検証のように人類社会の終焉を迎える可能性もある。

核兵器によって国家の安全を守るという思考は、すでに破綻しており、核兵器禁止条約が示すように、核兵器の禁止以外に、平和を実現する道はない。